DRD-333SYS 構成

¥83,000

メインスピーカー左

メインスピーカー右

¥21,000 一組

小形サウンドコントローラー

¥12,000

システムインターフェース ¥8,000

ウーファー

¥18,000

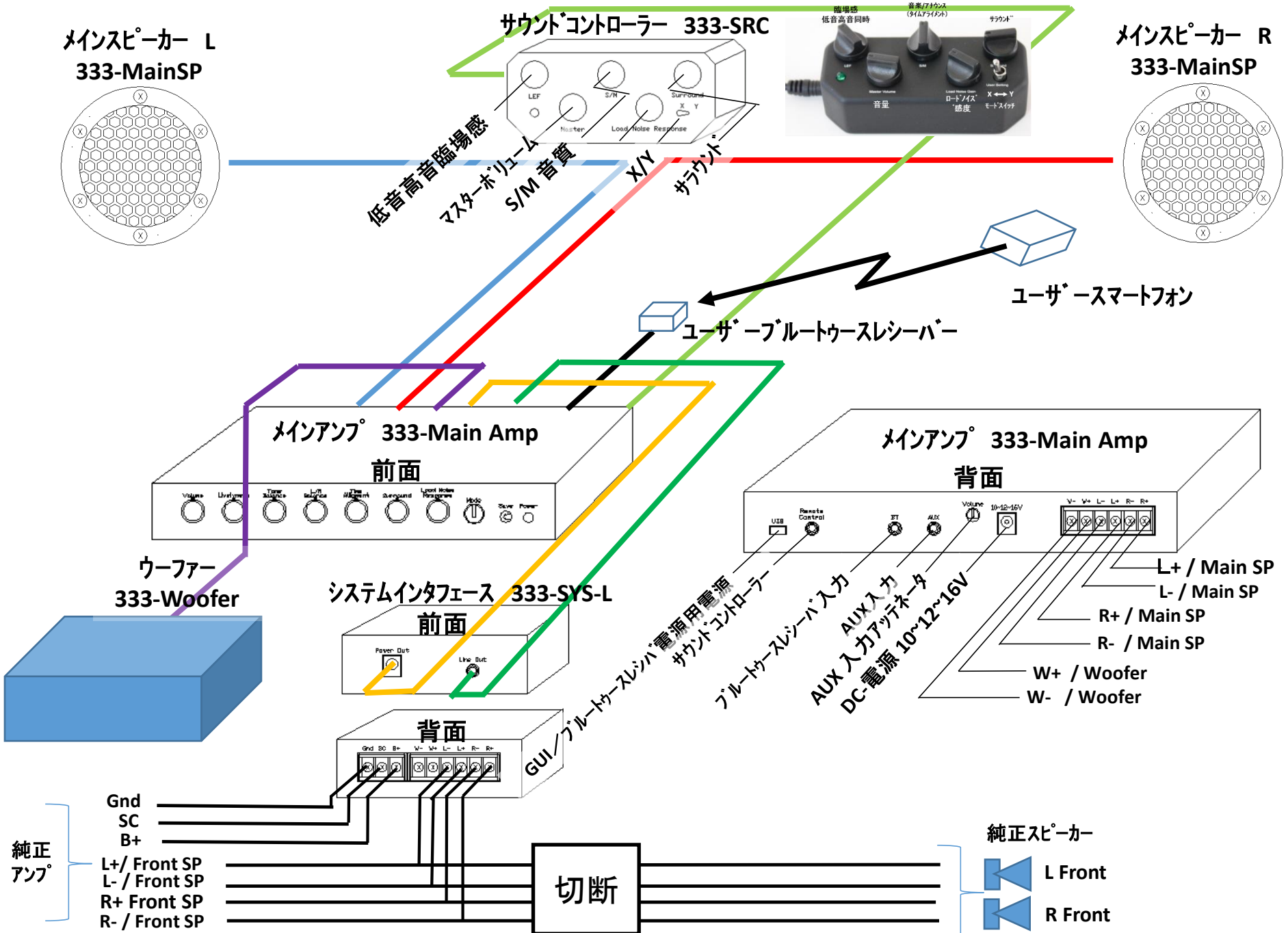
メインアンプ ¥24,000

接続コード 一式付属

価格は税送抜き （¥） は、旧PA-504シリーズと交換の場合で、メインケーブルが不要な場合

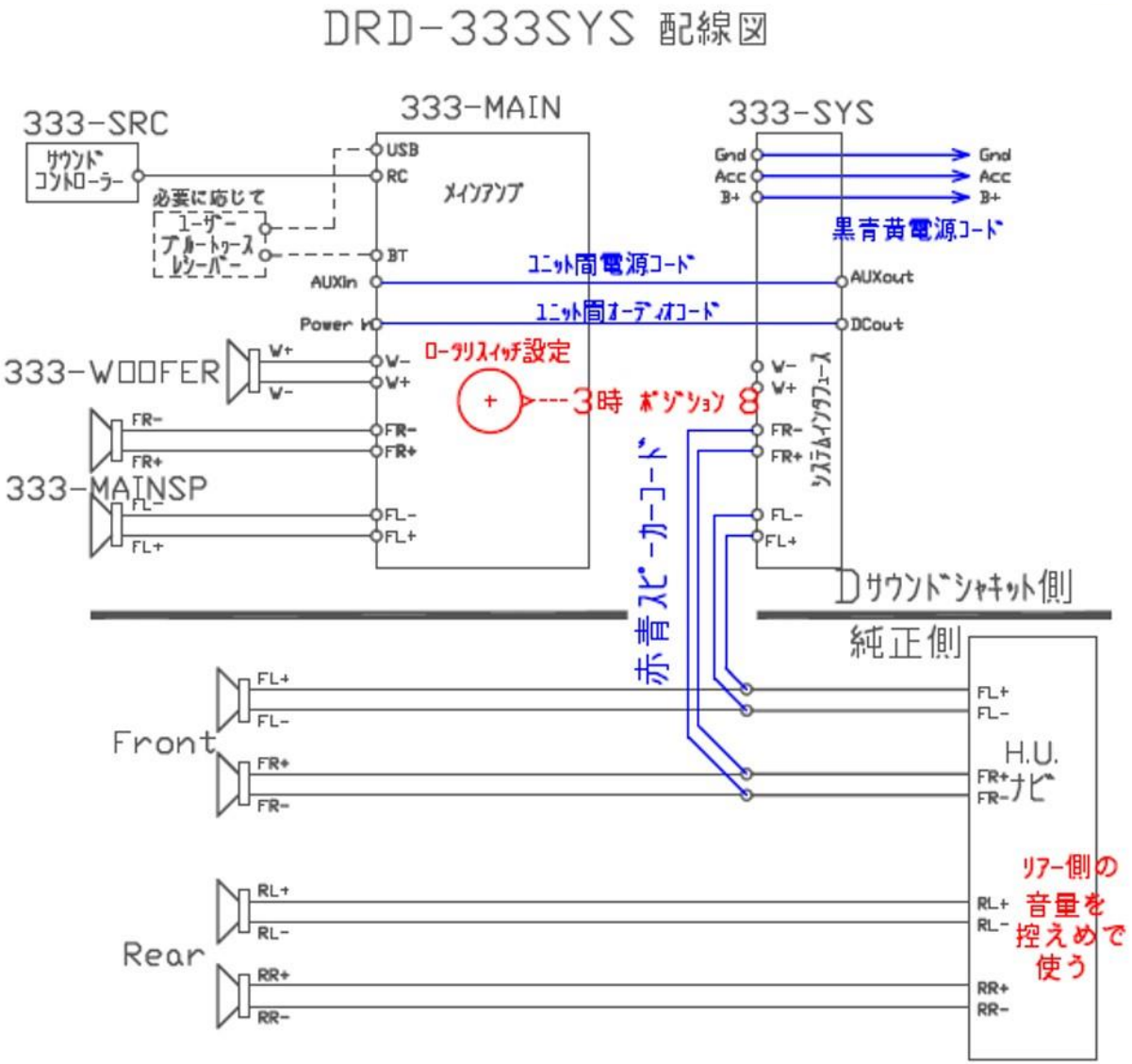
DRD-333SYS　接続ｺｰﾄﾞ一覧

純正共用ﾓﾃﾞﾙ　DRD-333SYS　構成と接続（ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ不使用可）



DRD-333SYS	
ﾓﾃﾞﾙ仕様	ｾｶﾝﾄﾞｵｰﾃﾞｨｵ（純正と共用）
用途	小型車 （ｽﾋﾟｰｶｰ性能不足）
ﾁｬﾈﾙ数	2.1
ﾒｲﾝｽﾋﾟｰｶｰ	新設 （中高音），ﾀﾞｯｼｭﾎﾞｰﾄﾞ上取付
ｳｰﾌｧｰ	新設 （座席下設置）
音源	ﾍｯﾄﾞﾕﾆｯﾄ，ﾅﾋﾞ （ﾌﾛﾝﾄだけ）
ﾛｰﾀﾘｽｲｯﾁ ﾎﾟｼﾞｼｮﾝ	ﾎﾟｼﾞｼｮﾝ８ （時計 3時）
注意事項	純正の音量を絞って使う （音質効果無）

構成表		
品名	品番	数
ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ	333-MainAmp	1
ｼｽﾃﾑｲﾝﾀﾌｪｰｽ	333-SYS	1
小型ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗｰ	333-SRC	1
ﾒｲﾝｽﾋﾟｰｶｰ	333-MainSp	1対
ｳｰﾌｧｰ	333-Woofer	1
黒青黄電源ｺｰﾄﾞ	BBYP-333	1
ﾕﾆｯﾄ間電源ｺｰﾄﾞ	UUPC-333	1
ﾕﾆｯﾄ間ｵｰﾃﾞｨｵｺｰﾄﾞ	UUAC-333	1
赤青ｽﾋﾟｰｶｰｺｰﾄﾞ	RBSP-333	1

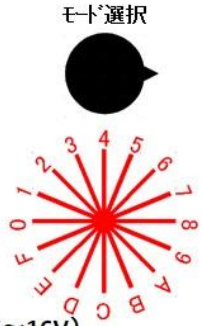


Dサウンドシャキット　使い始めの推奨調節方法について

小型サウンドコントローラおすすめ状態

メインアンプのおすすめ状態

小型サウンドコントローラが接続されると、コントローラ側に制御が移る操作



小型サウンドコントローラ	下左ツマミ	音量	小音量(左)で強力な臨場感
	下右ツマミ	ロードノイズの検出感度 （走行時効果が大きすぎる場合は左へ）	走行騒音に応じた最適音質音量
	上左ツマミ	臨場感 （メインアンプで設定された低音と高音の比率で低音高音同時）	音源に近づいた音質
	上中ツマミ	音楽/アナウンスの音質選択　12時：自動，左へ手動音楽，右へ手動アナウンス タイムアライメントの調節は　メインアンプのモード選択：9時，モードスイッチを右に倒して、 5秒後から調節し、モードスイッチを左に戻した後，モード選択も元に戻す	音楽だけ聴く場合は左いっぱい
	上右ツマミ	サラウンド （AMラジオの音楽でもサラウンドで左右に音場を広げる）	
	モード制御	通常左側，右側ではすべての効果がオフ	
メインアンプ	背面AUX感度	12時（音割れがする場合は左へ、感度不足の場合は右へ）	
	左2番目	低音臨場感成分比率：　通常右いっぱい	
	左3番目	高音臨場感成分比率：　通常12時　―＞　高音が強い場合は左へ	
	左4番目	左右の音の方向を調整 （AMラジオのアナウンスを再生）	前方に聴こえるよう
	モード選択	各種音質選択：　右表参照 1. タイムアライメント調節時はスナップスイッチを右に倒し、 5秒後から音楽/アナウンス　ツマミがタイムアライメント調節となる。AMラジオのアナウンスで音の方向を調節 調節後、スナップスイッチを左に戻し、モード選択を元の位置に戻す。 2. ウーファーの位相を反転する場合は　モード選択を9時から左へ一つ回し、5秒経過後元の位置に戻す。 3. ウーファーの位相を正相とする場合は　モード選択を9時から右へ一つ回し、5秒経過後元の位置に戻す。 4. 純正音質改善の場合：　右図参照 5. セカンドオーディオの場合；　右図参照	

仕様

電源：　12V （10V～16V）
消費電流：　暗電流　0.003A/3ch
　無信号時　0.23A/3ch
　最大出力時平均　3A/3ch
入力信号：　AUX　700mVrms/12時
　BT　300mVrms
USB充電出力：　5V，0.1Amax
その他詳細：　j-soundscience.com

16ポジションのモード選択スイッチの割り当て		
ポジション	用途	
8	セカンドオーディオ標準	
0	タイムアライメント調節モード	
9	純正音質改善 （セダン用）	
A	純正音質改善 （ハーフボックス用）	
B	純正音質改善 （ワンボックス用）	
1	5秒後にウーファーの位相を	出荷状態に記憶
F		反転記憶
その他	ユーザ要望拡張用	

ご注意　◆ 緑のランプの音量に同期した点滅は、過大入力のサインです。点滅しなくなるまでヘッドユニットまたはナビ側の音量を絞ってください。
◆ ロードノイズの検出感度は車に合った、最適の状態に調節します。　効きすぎるとロードノイズよりも強力な低音の大音量が発生します。
使い始めは控え目（左）から初めて、徐々にアップ（右へ）する方法で、最適状態に合わせ込みます。ツマミの操作は、慣れない間は停止中に行ってください。
◆ アナウンスとミュージックの自動音質調整は100%完全ではありません。音楽だけのときは左いっぱい、ニュースだけのときは右いっぱい、ラジオ放送では中央でお使いください。

取付配線　　純正共用ﾓﾃﾞﾙ　DRD-333SYS

ﾕﾆｯﾄ		設置場所と方法	配線先	注意事項
ﾒｲﾝｽﾋﾟｰｶｰ左		ﾀﾞｼｭﾎﾞｰﾄﾞ左	ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ　{L+, Li}	
ﾒｲﾝｽﾋﾟｰｶｰ右		ﾀﾞｯｼｭﾎﾞｰﾄﾞ右	ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ　{R+, Ri}	
ｳｰﾌｧｰ		座席下（ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟとは別の）	ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ　{W+, Wi}	
小型ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ		適切場所，ﾕｰｻﾞ希望場所	ﾒｲﾅﾝﾌﾟ　{Remote Control}	ﾌﾟﾗｸﾞ側、配線に緩みを設ける（ﾃﾝｼｮﾝをかけない） 緩みがないと、ﾌﾟﾗｸﾞが斜めになり、振動で雑音発生
ｼｽﾃﾑｲﾝﾀﾌｪｰｽ	L+, L-	ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟの横	純正　Front{L+, L-}ｱﾝﾌﾟ側	純正ｽﾋﾟｰｶｰ側は切断しない ﾍｯﾄﾞﾕﾆｯﾄまたはﾅﾋﾞ側のﾌｪｰﾀﾞｰで、ﾘｱｰ音量を絞る、 かまたは完全に絞る
	R+, R-		純正　Front{L+, L-}ｱﾝﾌﾟ側	
	W+, W-		無接続	
	Gnd		車体のｼｬｰｼｸﾞﾗﾝﾄﾞ	
	SC		Acc	Accがｼｬｯﾄﾀﾞｳﾝ　ー＞　約90秒後にﾒｲﾝｱﾝﾌﾟの電源がｵﾌ
	B+		ﾊﾞｯﾃﾘ＋	
	Power Out		ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ　10,12,16V　電源入力	
	Line Out		ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ　AUX　in	両端ﾌﾟﾗｸﾞ側に緩みを設ける（ﾃﾝｼｮﾝをかけない） 緩みがないと、ﾌﾟﾗｸﾞが斜めになり、振動で雑音発生
ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ		座席下（ｳｰﾌｧｰとは別の）		
電源接続ｺｰﾄﾞ			ｼｽﾃﾑｲﾝﾀﾌｪｰｽ{ Power Out }, ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ{ 10, 12, 16 VDC}	
ｵｰﾃﾞｨｵ接続ｺｰﾄﾞ			ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ　{AUX in} ｼｽﾃﾑｲﾝﾀﾌｪｰｽ　{Line out}	両端ﾌﾟﾗｸﾞ側に緩みを設ける（ﾃﾝｼｮﾝをかけない） 緩みがないと、ﾌﾟﾗｸﾞが斜めになり、振動で雑音発生
BT 接続ｺｰﾄﾞ	ｵｰﾃﾞｨｵ		ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ　{BT in} ﾕｰｻﾞｰBTﾚｼｰﾊﾞｰ　{ｲﾔﾎﾝ}	両端ﾌﾟﾗｸﾞ側に緩みを設ける（ﾃﾝｼｮﾝをかけない） 緩みがないと、ﾌﾟﾗｸﾞが斜めになり、振動で雑音発生
	USB		ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ　{USB} ﾕｰｻﾞｰBTﾚｼｰﾊﾞｰ　{USB}	

真夏、直射日光下、ﾀﾞｯｼﾎﾞｰﾄﾞはかなり熱くなります。
ﾒｲﾝｽﾋﾟｰｶ、ﾘﾓｰﾄｺﾝﾄﾛｰﾗ共に、
　この温度に耐えるよう設計してありますが、
　温度の上昇は低いにこしたことはありません。
ｻﾝﾄﾞｻｲｴﾝｽでは、いろいろな方法を試してみました。

◆　効果があって、安価で、簡単な方法は、
　　ｱﾙﾐ蒸着のｼｰﾄ（百円ｼｮｯﾌﾟ）を写真のように、
　　左右のﾄﾞｱとﾌﾚｰﾑとの間に挟んで、ﾄﾞｱを閉める、
　でした。是非お試しくださいますよう。実験の結果一夏はなんとか持ちます。

設置手順と方法　純正共用ﾓﾃﾞﾙ　DRD-333SYS

1A	ﾒｲﾝｽﾋﾟｰｶ設置	1-1.　左右それぞれのﾒｲﾝｽﾋﾟｰｶの後面の接続ｺｰﾄﾞ（青は左、赤は右）のﾌﾟﾗｸﾞ　を引き出す 1-2.　ｺｰﾄはとりあえずは垂れ流しにしておく 1-3.　ﾀﾞｯｼｭﾎﾞｰﾄﾞの左右に　ｴｱﾊﾞｯｸが開く場所を避けて　ﾒｲﾝｽﾋﾟｰｶｰを取り付ける
2A	ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ設置	2-1.　ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗのｺｰﾄﾞはとりあえずは垂れ流しにしておく 2-2.　ﾀﾞｯｼｭﾎﾞｰﾄﾞの上 または 運転席から操作しやすい場所 にｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗｰ を取り付ける
3A	そのほかのﾕﾆｯﾄの 設置場所の決定	3-1.　ﾒｲﾝｱﾝﾌ：　座席の下で、ｳｰﾌｧｰとは別の座席の下（ｳｰﾌｧｰが助手席の下ならﾒｲﾝｱﾝﾌﾟは運転席の下） 3-2.　ｼｽﾃﾑｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ：　ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟの側近 3-3.　ｳｰﾌｧｰ：　座席の下で、ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟとは別の座席の下（ﾒｲﾝが助手席の下ならｳｰﾊﾟは運転席の下）
4A	ﾒｲﾝｽﾋﾟｰｶｺｰﾄﾞの 仕舞い込みと接続	4-1.　左右それぞれ、ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟのﾒｲﾝｽﾋﾟｰｶｰ向けﾈｼﾞﾀｰﾐﾅﾙに向けて接続ｺｰﾄﾞを延ばす 4-2.　配線経路で、ｺｰﾄﾞが見えないように、｛車の構造物と構造物の隙間にｺｰﾄﾞを埋め込む｝　｛ﾏｯﾄの下に仕舞い込む｝ 配線経路で、ｺｰﾄﾞが足元や手元にはみ出ることがないよう、配線 4-3.　配線の仕舞い込みが終われば、ﾒｲﾝｽﾋﾟｰｶｰ接続線のﾀｰﾐﾅﾙ側をﾒｲﾝｱﾝﾌﾟのﾈｼﾞﾀｰﾐﾅﾙに接続 極性に注意　｛ Lp（青：左ﾒｲﾝ＋），Ln（黒：左ﾒｲﾝ－）｝，｛ Rp（赤：右ﾒｲﾝ＋），Rn（黒：左ﾒｲﾝ－｝
5A	ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾙｺｰﾄﾞの 仕舞い込みと ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗへの接続	5-1.　ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗｰからﾒｲﾝｱﾝﾌﾟのRCｼﾞｬｯｸに向けて接続線を延ばす 5-2.　配線経路で、ｺｰﾄﾞが見えないように、｛車の構造物と構造物の隙間にｺｰﾄﾞを埋め込む｝　｛ﾏｯﾄの下に仕舞い込む｝ 配線経路で、ｺｰﾄﾞが足元や手元にはみ出ることがないよう、配線 5-3.　配線の仕舞い込みが終われば、接続線のﾌﾟﾗｸﾞをﾒｲﾝｱﾝﾌﾟのｼﾞｬｯｸ　RC　に差し込む
6A	ｳｰﾌｧｰｺの設置と ｺｰﾄﾞの仕舞い込みと ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟへの接続	6-1.　ｳｰﾌｧｰの底面を上向きに設置 6-2.　接続線をﾒｲﾝｱﾝﾌﾟのｳｰﾌｧｰ接続ﾀｰﾐﾅﾙに向けて延ばす 6-3.　接続線を配線経路で、ｺｰﾄﾞが見えないように｛ﾏｯﾄの下に仕舞い込む｝ 6-4.　接続線の端子を、ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟのﾈｼﾞﾀｰﾐﾅﾙにねじ止め 極性に注意：　｛ Wp（黄：ｳｰﾌｧｰ　＋，Wn 黒：ｳｰﾌｧｰ －｝

7A		
8A		
9A	ｼｽﾃﾑｲﾝﾀﾌｪｰｽの設置と ｺｰﾄﾞの仕舞い込みとﾒｲﾝｱﾝﾌﾟへの接続	9-1. ｼｽﾃﾑｲﾝﾀｰﾌｪｰｽの純正ｼｽﾃﾑとの配線は、 必ずｼｽﾃﾑｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ側のﾈｼﾞﾀｰﾐﾅﾙへの接続を先に済ませる。 矢型端子をﾈｼﾞﾀｰﾐﾅﾙで止める際、ﾈｼﾞが緩まないよう、しっかりと締め付ける。 ﾈｼﾞの締め付け強さとｺｰﾄﾞの色はﾀﾞﾌﾞﾙﾁｪｯｸ ｺｰﾄﾞのねじ止め後、ﾈｼﾞﾀｰﾐﾅﾙにｶﾊﾞｰを装着 （車の構造物との接触によるﾊﾞｯﾃﾘｰｼｮｰﾄを避ける） 9-2. ｼｽﾃﾑｲﾝﾀｰﾌｪｰｽの｛FL+（青），FL-（黒），FR+（赤），Fr-（黒）｝から 純正ｼｽﾃﾑのｽﾋﾟｰｶ接続線の｛FL+，FL-，FR+，Fr-｝へ接続 9-3. ｼｽﾃﾑｲﾝﾀｰﾌｰｪｰｽの｛Gnd（黒），Acc（青）｝から 純正ｼｽﾃﾑの電源接続線の｛Gnd，Acc｝へ接続 ｼｽﾃﾑｲﾝﾀｰﾌｪｰｽの｛B+｝から 正ｼｽﾃﾑの電源接続線の｛B+｝へ接続 注意： この際（B+）への接続はこの作業の最後（B+ を先に接続すると、 ﾊﾞｯﾃﾘｰをｼｮｰﾄさせる可能性がある） 9-4. ｽﾋﾟｰｶｰｺｰﾄﾞと電源ｺｰﾄﾞの接続が終われば、配線経路に電源ｺｰﾄﾞがが目立たないよう、仕舞い込む。 9-5. 電源ｺｰﾄﾞの両端のDCﾌﾟﾗｸﾞをｼｽﾃﾑｲﾝﾀｰﾌｪｰｽとﾒｲﾝｱﾝﾌﾟのDCｼﾞｬｯｸに差し込む 9-6. ｵｰﾃﾞｨｵｺｰﾄﾞの両端ﾌﾟﾗｸﾞをｼｽﾃﾑｲﾝﾀｰﾌｪｰｽの LineOut と ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟの AUXInput に接続 9-7. 電源ｺｰﾄﾞとｵｰﾃﾞｨｵｺｰﾄﾞが目立たないよう、仕舞い込む。
10A	電源をﾒｲﾝｱﾝﾌﾟに接続	10-1. 両端DC電源ﾌﾟﾗｸﾞ付きｺｰﾄﾞでﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ側の電源入力とｼｽﾃﾑｲﾝﾀﾌｪｰｽ側の電源出力に差し込む
11A	ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟとｼｽﾃﾑｲﾝﾀﾌｪｰｽの仕舞い込み	11-1. 全て配線を接続したﾒｲﾝｱﾝﾌﾟとｼｽﾃﾑｲﾝﾀﾌｪｰｽを座席下へ仕舞い込む

1B	エンジンを起動する前の確認	1B-1. ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗｰｺｰﾄﾞをﾒｲﾝｱﾝﾌﾟのRCｼﾞｬｯｸへ接続 （BTまたはAUXｼﾞｬｯｸへ接続していないことを確認） 1B-2. ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟのモード切替ｽｲｯﾁが 3時 （右向き水平方向） 1B-3. ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟと小型ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗのｽﾅｯﾌﾟｽｲｯﾁが左側
2B	エンジンを起動して 電源系統の確認	2B-1. ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗの緑ランプが数秒間点滅の後、連続点灯 （点灯しない場合はﾒｲﾝｱﾝﾌﾟの緑ﾗﾝﾌﾟの点灯を確認 ーー＞ 点灯していればｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗｰとﾒｲﾝｱﾝﾌﾟの接続を再確認） （ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟの緑ﾗﾝﾌﾟが点灯していない場合 ーー＞ 電源ｺｰﾄﾞの接続を確認） 2B-2. ｽﾏｰﾄﾌｫﾝの場合、ﾌﾞﾙｰﾄｩｰｽﾚｼｰﾊﾞとの間でﾍﾟｱﾘﾝｸﾞを取る （ﾌﾞﾙｰﾄｩｰｽﾚｼｰﾊﾞのﾗﾝﾌﾟが点滅していなければ ーー＞ USBｺｰﾄﾞの接続を確認） （ﾍﾟｱﾘﾝｸﾞが取れなければﾌﾞﾙｰﾄｩｰｽﾚｼｰﾊﾞの説明書によるﾍﾟｱﾘﾝｸﾞ手順を確認）
3B		
4B		
5B	純正ｼｽﾃﾑの再生音の ﾀﾞｲﾅﾐｯｸｻｳﾝﾄﾞｼｬｷｯﾄでの 再生を確認	5B-1 純正側の再生音を微小音量（最大ﾒﾓﾘの5分の１程度）とし、ﾀﾞｲﾅﾐｯｸｻｳﾝﾄﾞｼｬｷｯﾄから再生されることを確認
6B	操作ﾂﾏﾐの機能確認	6B-1. 各種ﾎﾞﾘｭｰﾑとｽｲｯﾁの状態の確認 （以下、時刻表記は時計の短針の位置に相当） Master Volume： 音量調節， Bass Tone： 低音調節 （ 推奨 10時～11時 ） ＊ Bass Tone： 低音調節 （ 推奨 10時～11時 ） ＊ Treble tone： 高音調節 （ 推奨 10時～11時 ） ＊＊ L/R Balance： ｱﾅｳﾝｽと 音楽 の音質調整の自動と手動の兼ね合い （ 中央は自動，左ほど強制音楽，右ほど強制ｱﾅｳﾝｽ ）（ﾀｲﾑｱﾗｲﾒﾝﾄの設定と共用です） Surround： 音場の左右の広がり感の調節 （通常 9時～10時 ）（ ﾓﾉﾗﾙの楽曲には効果はありません ） Load Noise Response： ﾛｰﾄﾞﾉｲｽﾞ対応音量音質の調節 （ 推奨 11時 ）（ 車体、設置条件，好み によって満足な状態にｾｯﾄ ） （注意： 運転に支障のない範囲で行ってください。 特に、慣れていない間はﾊﾟｰｷﾝｸﾞ中に操作 ＊＊＊ Mode： 各種設定のための １６通り の切り替えｽｲｯﾁ（通常は ﾎﾟｼﾞｼｮﾝ3時の位置）， ｽﾅｯﾌﾟｽｲｯﾁ： X側 （左） ﾀｲﾑｱﾗｲﾒﾝﾄ： ﾓﾉﾗﾙ信号（ﾗｼﾞｵ放送）を再生、ﾎﾟｼﾞｼｮﾝを9時、ｽﾅｯﾌﾟｽｲｯﾁをY 側 （右側）とし、5秒経過後、 S/M のﾂﾏﾐで音の方向調節、ｽﾅｯﾌﾟｽｲｯﾁをX側（左）に戻す ＊ ： 小型ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗの LEF は（ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟで設定の Bass，Treble の比率で） 低音高音同時可変 となる ＊＊ ： L/Rﾊﾞﾗﾝｽは常時ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ側で設定 小形ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ側からの制御はできない ＊＊＊： Mode は ﾛﾀﾘｽｲｯﾁは常時ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ側で設定、小型ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ側からの制御はできない

7B	純正ｼｽﾃﾑの再生音を 適正な音量で 再生する設定	7B-1. 聞き慣れた楽曲 や 低中高音でﾊﾞﾗﾝｽの良い楽曲を再生 ーー＞ 適正音量音質、好みの状態に調節 7B-2. 左右の音量ﾊﾞﾗﾝｽの調節： ﾆｭｰｽを再生し、音が正面から聞こえるようL/R Balanceを調節（ 右ﾊﾝﾄﾞﾙの場合、11時前後） 7B-3. ﾀｲﾑｱﾗｲﾒﾝﾄの調節：ﾆｭｰｽを再生、MODE 0，ｽﾅｯﾌﾟｽｲｯﾁ 右Y側 、5秒後 S/M Tone を回し、音が正面から聞こえるよう調節， ｽﾅｯﾌﾟｽｲｯﾁを左X側に戻す 7B-4. ｻﾗｳﾝﾄﾞの調節： 好みの状態に
9b	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ中での 音質確認	8B-1. ﾀﾞｲﾅﾐｯｸｻｳﾝﾄﾞｼｬｷｯﾄのﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑを10時とする 8B-2. ﾀﾞｲﾅﾐｯｸｻｳﾝﾄﾞｼｬｷｯﾄの再生音量が適正音量となるよう、純正ｼｽﾃﾑの再生音量を選択 8B-3. その後の再生音量はﾀﾞｲﾅﾐｯｸｻｳﾝﾄﾞｼｬｷｯﾄのﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑで調節 （ﾀﾞｲﾅﾐｯｸｻｳﾝﾄﾞｼｬｷｯﾄの再生音が｛ 歪む．音割れ｝ ーー＞ 純正側音量を下げる ） （ﾀﾞｲﾅﾐｯｸｻｳﾝﾄﾞｼｬｷｯﾄの再生音に｛ ﾁﾘﾁﾘ，ｻﾞｻﾞ ｝とﾉｲｽﾞが入る ーー＞ 純正側音量を上げる） 8B-4. 純正側で再生したい場合はｼﾞｭﾆｱｻﾗｳﾝﾄﾞｼｬｷｯﾄの音量を絞り、純正側の音量を上げる。
8B	走行中での 音量音質確認	9B-1. 停止中、常々聞いている音量にｾｯﾄ 9B-2. 走行中、最も右のﾛｰﾄﾞﾉｲｽﾞ対応音量音質調整ﾂﾏﾐで、 走行速度や路面状態によって大きく変化するﾛｰﾄﾞﾉｲｽﾞの中で、最適音量音質に調節（ その後は固定｝ 一度設定しても、慣れの度合いによって、さらに自然にしたい、と感じます。その時は再調節します。 何度か試みて最適のﾎﾟｼﾞｼｮﾝを選びます。 （ 注意： 慣れない間、運転中の音量が気になりますが、運転を最優先にしてください ） （ 注意： 楽曲によって、放送は電波の状態によって、音量が変わりまます。 この場合はﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑで調節します）
10B	ｱﾅｳﾝｽと音楽の 音質確認	10B-1. S/M Tone のﾂﾏﾐを12時とし、楽曲とｱﾅｳﾝｽとの再生音質を比べます。 12時の位置はｱﾅｳﾝｽと音楽の自動判定による自動音質制御です。 音質を自動ではなく手動選択にしたい場合、 12時から左に廻すほど手動での音楽向きの音質になります。 中間は固定の｛音楽音質またはｱﾅｳﾝｽ音質｝と自動とを案分します。12時に近いほど自動調節に任せます。 （自動の場合、映画や天気予報など、BGMが入っていると、音楽音質傾向になります。）
11C	各操作ﾂﾏﾐの 有効的な使い方	目を向けなくても、指先の感覚で場所と角度を調節できるように。 11C-1. ﾏｽﾀｰ 必要にお応じて都度操作。 11C-2. Bass Tone，Treble Tone 好みの低音感と高音感にバランスよく調節 （ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ側で設定，小型ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ側からは双方同時 ） 11C-3. LEF 楽曲の臨場感を調節 （ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ側で設定された低音と高音のﾊﾞﾗﾝｽのままそのﾐｯｸｽされた臨場感の調節 ） 11C-4. Surround 好みによって、楽曲によって、左右の広がり刊を調節。録音状態によっても効果が異なります。 ﾓﾉﾗﾙ放送の場合は機能しません。 11C-5. Load Nose Response 走行騒音中での快適なﾘｽﾆﾝｸﾞを提供する機能です。 数回の調整で、最適の状態にｾｯﾄできます。

ご使用に際して

運転中のﾘｽﾆﾝｸﾞで、
　　前方から音が聞こえること、
　　ﾛｰﾄﾞﾉｲｽﾞに対応して音量音質が最適状態に自動調節されること、
　　ｺﾝﾄﾛｰﾗの操作ﾂﾏﾐが多いこと、
　　など、これまでのｶｰｵｰﾃﾞｨｵとは音質の感じ方や操作方法が大きく違います。
　　数回の運転で慣れますが、
　　使い始めはくれぐれもご注意くださいまして、運転に集中くださいますよう。

　　いろいろな楽曲でお試しくださいますよう。

何かと、お気づきの点がありましたら、下記までご連絡くだされば、と存じます。

ｻｳﾝﾄﾞｻｲｴﾝｽ株式会社
郵便番号　770-8041　徳島市上八万町西山436番地
0886-44-2222　　web_support@soundscience.co.jp